

R7 とうきょう すくわくプログラム活動報告！

学校法人二葉学園
幼保連携型認定こども園葛飾二葉幼稚園
東京都葛飾区金町 2-19-6

「東京都では、幼稚園や保育所において子供たちが好奇心や興味を持ってわくわくしながら遊び、学べるよう応援する「とうきょうすくわくプログラム推進事業」という取り組みを行っています。取り組みを通じて子供たちの自己肯定感や思いやりといった豊かな心の育ちをサポートしていきます。」（東京都）

葛飾二葉幼稚園では、「日常的な動物とのふれあい」をテーマに、上記の「東京すくわくプログラム」を実践しています。

ミニ牧場を設置して、ボーイ（ミニチュアホース）、ハッピー（マイクロブタ）、イブ（うさぎ）、モカ（モルモット）や、ピオトープのカエルやオタマジャクシ、メダカなど、日々子どもたちが園生活において、身近に動物などのいきものたちとふれあえる環境を考えています。年長組がボーイやハッピーを、年中組がイブやモカをお世話したり、乳児クラス幼児クラスと年齢を問わず、園庭で過ごす際には、これら動物たちを目にしたり、時に野菜や園庭の草をあげたりしています。子どもたちは動物たちを身近な存在として園生活を過ごしています。

幼稚園が動物を飼育する目的としては、

- ・動物に愛情を持って接すること（他者を思う心、弱者をいたわる心）
- ・動物を介してあらたな友だち関係が生まれること
- ・もの言えぬ動物たちの表情やしぐさから感情を感じる
- ・その生態や行動に興味関心を抱くこと
- ・“生きる（生きている）”ということを感じる
- ・“死”について知ること

などがあげられます。

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「日常的な動物との触れ合い」

<テーマの設定理由>

子どもたちにとって、身近な環境で動物と触れ合う・飼育する機会が減少している。動物との触れ合いは、動物たちの動作や表情、そしてそれぞれ動物の特性の違いに気づいたり、ミニチュアホース、マイクロブタ、ウサギ、モルモット、魚と触れ合う（飼育含む）ことによって、愛情飼育、情操教育はもちろん、生き物、食生活の不思議、そして生きること（生命）に対する興味関心を広げる。その興味関心は、主体的な活動につながり、動物との触れ合いによって、友だち関係が築けたり広がったり、5領域、10の姿に深く関係する。

2. 活動スケジュール

年間を通して。日々の日常に動物との触れ合える機会を創出すること。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ミニ牧場や動物小屋、動物を施設内で移動できる木柵などの囲い（触れ合えるコーナーなど）。

動物の好きな雑草を生やすなど。

飼料（エサ）。

獣医、獣医（歯科医）、装蹄師などの定期的な来園（診察）等。

特にボーイ（ミニチュアホース）へのエサやりについては、2024年11月に山梨県の乗馬施設で起きた、馬のエサやり体験をしていた幼児が馬に手の指をかみ切られるという事故を踏まえて、手から直接の餌やりをするのではなく、エサやり用の手持ちトレイを用意して行うようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

グループに分かれて、動物たちの餌やりやブラッシングや糞の片付け、動物小屋の掃除を行い、子どもたち自身が「何を食べるの？どんな草が好きなの？どんなウンチをするの？」と自らの問いに気づいて、それぞれの気づきを共有しながら活動を行うことにより、動物を介しての新たな関係性が生まれることを促した。

あらためて動物を間近で観察し、全体像だけでなく、顔、耳、鼻、歯並び、足や蹄、毛並みなど、細かな部分も観察した。

その後、子どもたちは興味を持った部位を図鑑で見たり、画用紙に描いたり、どんぐりなどの自然素材を使って顔を表現したりした。

そして、自分の作品を友達にこだわったところなどを話し合った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

エサをあげたり、糞の掃除をする中で、

「なぜ糞の大きさ、形、色、匂いなどが違うのだろうか？」の気づきや、「食べるものが違うから！」「牧草やペレットのほかに好きなものはなんだろう？」「園庭の草をあげてみよう！」「食べる草、食べない草がある！」「動物のよっても好みが違う！」「食べる草と食べない草を分けてみよう！」などと自然と子ども同士が発見や疑問を伝え合い、それを試す姿が見られた。

保育者は、動物が主人公の絵本を読んだり、動物や植物の図鑑を保育室に置いたり、いつでも目に触れる環境をつくる。

また、動物たちの好きな草の特徴を、実際に園庭などで採集して、興味を引き出す関わりを持つ。

動物をテーマにした会画像気活動では、動物を間近に見て、蹄の形や毛の硬さ、歯並びを実際に見て、「ボーイ（馬）の歯はきれいに並んでいる！」や「はおおびー（豚）の歯は尖っている！」「イブ（ウサギ）とモカ（モルモット）は同じだ！」などと、葉の造りにも興味を持っていた。



お当番でボーイをブラッシング！



ミニ牧場はいつも子どもたちが集まって、動物たちと日常的に触れあっています！



モカ（モルモット）のブラッシング！



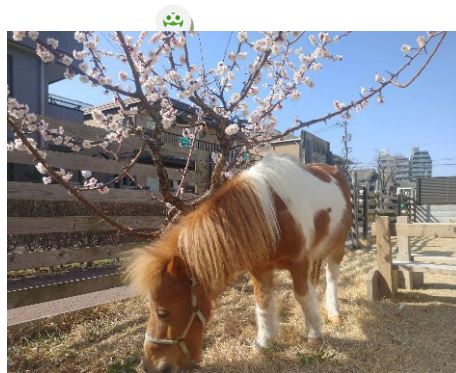
新しく仲間に加わったイブ（ウサギ）と初対面！



ミニ牧場はお掃除もみんなですます！



冬は自分で落ち葉布団に入って暖をとるハッピー！



春先の梅とボーイ！



今年度仲間に加わったイブ



年少組（3歳児）。どんぐりや木の枝でボーイの顔を表現！



ボーイをまじかで見つ、自分が興味を持ったところ画用紙に描いています！

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

同じ動物との触れ合いであっても、子どもたちの興味関心は、姿（顔、足、爪、歯、毛並み）動き（走り方）、泣き声、糞、寝方、好きな食物、その日の様子（機嫌）など、子どもによって、動物との接点（興味関心）は様々であること。それぞれ発見や疑問を受け止め、言語化してクラスのみんなに共有することで、より子どもたちが主体的に動物に関われるようになったこと。

また、この活動を通して、あるいは動物を介在して、新たな友だち関係も生まれたり、広がったりする姿も見られた。

間近で観察する際も、一つ一つ体の細かな部位を見たり触ったりできたことで、子どもによって興味関心のある場所があったり、それを意欲的に絵画や造形で表現する活動につながった。